

LA VIDA EN MÉXICO

～パビリオンの設計と文化交流～

TAKU MINAGAWA Vol.9

□設計活動の始まり

5月はCEPEでのスペイン語の勉強(上級レベル)、またルイス・バラガン財団でのボランティア活動を行う一方で、私の本業である設計のプロジェクトに参加することができました。そのため大変忙しかったのですが、とても充実した時間を過ごすことができました。



〔工場での施工者打合せ〕

□設計プロジェクト

毎年メキシコシティでは“FICA 2019”(Feria Internacional de las Culturas Amigas※日本語に訳すと“世界友好文化フェア”)という文化交流・発信のための大きなイベントが開催されています。昨年はメキシコシティの中心地であるソカロで開催され約400万人が訪れたメキシコでも最大規模のフェスティバルですが、今年は自然豊かなチャプルテペック公園にて開催されることになりました。私は日本では建築設計の仕事をしていましたが、大学の先輩であり、現在メキシコのモンテレイ大学で教授をされている東先生にお声掛けを頂き、FICA2019における日本パビリオン設計の手伝いをさせて頂く機会を頂きました。

FICAは約90の国が約2週間に渡り参加するイベントで、各国がそれぞれの文化を展示するパビリオンを出展します。パビリオンと言っても小さな仮設のブースですが、展示の方法や空間の構成方法、施工方法など考える事が非常に多く、また当然、施工者との打ち合わせもスペイン語で行う事になり、より実践的なスペイン語の会話力が求められました。

プロジェクトを通じて感じた事は、日本でもメキシコでも建築や空間を作るプロセスは同じであること、また、設計者と施工者の良いコラボレーションができることが良い空間づくりに繋がるという事です。

□FICA 会期中のボランティア

日本パビリオンのテーマは“食”です。日本食の豊かさを少しでも広めるため、壁面に展示スペースを設け、また人々が気軽に訪れることが出来る茶室空間を作りました。茶室空間は人をもてなす場であり、またお茶の文化を表す場でもあります。この空間は写真撮影スペースでもあるのですが、これが大変好評で、会期中に来場者された人々がたくさんの写真を撮っていました。私は会期中に何日か浴衣を着てパビリオンの案内をしたのですが、人生で一番写真を撮られた日になりました。



〔完成したパビリオン〕

LA VIDA EN MÉXICO

～パビリオンの設計と文化交流～

TAKU MINAGAWA Vol.9



〔(上)浴衣モデル及び、(下)インタビューを受ける筆者〕

ロ大使館での懇親会

5月末には在メキシコの日本大使館・大使公邸にご招待頂き、他の日墨の奨学生一同と共に高瀬大使との会食に参加してきました。留学生活も残す所あと2ヶ月となり、近況報告はもちろん、このメキシコ留学生活で学んで来た事、また留学後の予定や目標などを大使にお話させて頂き、懇親の時間を持つ事ができました。



〔高瀬大使と日墨46期生一同〕



〔たくさんの人で賑わうFICA、日本パビリオン〕

会期中は沢山の人が日本パビリオンを訪れてくれ、興味を持って日本食の展示や茶室を見学してくれました。準備や設計は大変でしたが、1人の建築家としてメキシコに人々が集う空間を作れた事がとても嬉しく、大変貴重な経験となりました。